

## 「ドアを開ければ」

Paula Olesik

ワルシャワ大学日本学科 4年生

昨年の秋のことです。私は公園のそばを歩いていて、ふと木の葉の匂いを感じました。そしてその匂いで、ある思い出が頭をよぎりました。小さな私が母と一緒に笑いながら、公園で遊んだり、葉っぱを拾ったりしているのです。私はそんな光景を思い出しながら、ちょっと哀しい気分になってしまいました。どうして大人になった今は、あの時のような楽しいことが起こらないのでしょうか。

皆さんには幸せな思い出がありますか。それを思い出す時、どのように感じますか。大人になってから、時々子供の頃の思い出にふけり、昔はよかったのになあ、と、気もちが暗くなることはありませんか。大人にとって、今閉まっているドアはただの閉まったドアです。でも、好奇心が強い子供にとっては、閉じられたドアは秘密への扉です。私は子供の時、よく屋根裏部屋に上りました。親はダメだと言いましたが、闇に隠れた階段をひそかに上って、屋根裏部屋にある秘密を探しました。それは素晴らしい遊びでした。冬の日には、よく、そこから光る白い雪を眺めました。ところが今は日常に追われて、空の色や雪の美しさなどに気付くことはできません。

でも、大人の日常は本当にそんなに面白くないのでしょうか。そんなことはありません。この世界は決して変わっていないのです。雪も、美しい空も、そこにあるはずです。閉じられたドアだけが秘密の扉ではありません。人をわくわくさせるような秘密は他にもあります。例えば人間です。色々な人と知り合って、好奇心を持って、面白い意見を聞けば、きっと楽しむことができます。私は光の宿る目の人を見ると、その人と話したくなります。その人がどんなことを言いたいかわかりたくなります。世界には、美しくて面白いものがたくさんあります。それは、旅行なんかに行かなくても、日常生活でも見つけられるはずです。

思い出は素晴らしいものです。でも、「昔はよかったなあ」と悲しい気持ちになってはいけません。大人は子供と違って美しいものが見えません。それは、大人の心のせいかもしれません。でも、世界には喜びがいっぱいあります。ちょっと窓を開けてみてください。木の葉の匂いは今でも楽しむことができます。たとえ忙しくても、心配事があっても、楽しもうという気持ちさえあれば、大人でも世界を楽しめるのではないのでしょうか。さあ、皆さん、心の窓も、心のドアも、大きく大きく開けてください。人の笑顔とか、雲の色とか、太陽の光とか、自分だけの美しい「何か」を、きっと探し出せるはずです。